

西北地域県民局地域農林水産部農村整備五所川原庁舎の取組み



去る平成 25 年 10 月 6 日（日）に五所川原市金木町芦野公園において、西北地域県民局地域農林水産部（五所川原庁舎）では、弘前大学農学生命科学部からの依頼により、農学生命科学部 1 学年生（196 名）を対象に「農業水利施設及び環境公共について」説明を行いました。

この説明は、農学生命科学部の授業である「農学生命科学概論Ⅱ」で食資源生産に係わるバイオテクノロジー分野、作物、果樹、蔬菜等の食料生産分野、食品科学、農業経済学、農業工学等の多彩な農学分野と生物学との連携の実際と課題を学ぶため、その一環として依頼されたものです。

「農業水利施設について」の説明内容は、農業と水、土地改良事業による農業水利施設の整備、農業用水の現状、農業水利の特質、農業水利施設の老朽化の進行、小田川地区農業水利事業の概要、藤枝ため池と管理橋、環境公共等で、当日は、午前と午後の 2 グループに対して当部長谷川次長のあいさつの後、野呂農村計画課長が資料を用いて学生に説明を行いました。

小田川地区農業水利事業の概要では、五所川原市外 1 町にまたがる水田地帯で、稲作を中心に水田の畑利用による大豆、麦及び野菜等を組合せた複合経営を展開している県内有数の農業地帯であり、農業農村整備事業で造成されたダム、ため池、頭首工、用水路、揚水機場等が地域の農業用水の安定的な供給と施設の維持管理を軽減してきたこと等を説明しました。

藤枝ため池と管理橋では、藤枝ため池が江戸時代に津軽藩がかんがい用に築造されたもので貴重な水源として今も利用されていること、浮橋である管理橋をはじめ、説明場所である遊水施設（水上デッキ）や芦野公園のキャンプ場にある駐車場、休憩所、水飲み場、トイレ等が、ため池の親水・景観保全等の施設として県営水環境整備事業により整備され、利活用されていること等を説明しました。

環境公共に関して、青森県では、農林水産業を支えることは地域の環境を守ることにつながるとの観点から、農林水産業の生産基盤や農山漁村の生活環境などの整備を行う公共事業を「環境公共」と位置付け推進していること等を説明しました。

説明の後、水上デッキからキャンプ場まで歩いてもらい、藤枝ため池やキャンプ場にある施設を見学してもらいました。今回の説明が、学生にとって将来何らかの役に立つことを期待します。

「環境公共」ホームページ : <http://www.pref.aomori.lg.jp/sangyo/agri/kankyokoukyou.html>